

市長	副市長	教育長	教育次長	課長	館長	館長補佐	係長	記録

【所属名：教育委員会文化振興課（博物館）】  
【会議名：糸魚川市博物館協議会 全体会】

開示  
一部開示 (理由:条例第 条第 号 該当)  
不開示  
時限不開示 (開示: 年 月 日)

## 会 議 録

作成日 平成 30 年 7 月 10 日

日	平成 30 年 7 月 3 日	時間	13:30 ~ 16:25	場所	フォッサマグナミュージアム 研修室
件名	<p>議題 1 報告事項 1～5 (公開)  議題 2 協議事項 (公開)</p> <p>1 平成 30 年度博物館協議会の活動計画について  2 平成 30 年度博物館事業計画 (業務係担当分) について  3 平成 30 年度博物館事業計画 (学芸係担当分) について  フォッサマグナパークの断層露頭見学および意見の集約</p>				
出席者	<p>【出席者】 9 人  専門部会 榎座副会長 天野委員 大塚委員 松岡委員  運営部会 池亀会長 渡辺委員 野本委員 山本委員 中村委員</p> <p>【欠席者】 1 人  運営部会 赤野委員</p> <p>【事務局】 6 人  博物館 磯野館長 竹之内館長補佐 中村館長補佐 古平業務係長 茨木主査 小河原主事</p>				
	傍聴者定員	人	傍聴者数	0 人	

### 会議要旨

- 1 開会 (13:30)  
磯野館長あいさつ
- 2 自己紹介  
新任の山本委員のみ自己紹介
- 3 議題
  - (1) 報告事項

【事務局】 報告事項 1～4 を資料に基づき説明する。  
【事務局】 報告事項 5 を資料に基づき説明する。  
【委員】 昨年度の国際放散虫研究集会と糸魚川巡検ではお世話になった。報告のどこに記載があるのか。  
【事務局】 18 ページの「学会・会議への出席および発表」の 9 にある。  
【委員】 石の鑑定を実施する曜日を制限したとのことだが、利用者数は変化したか。  
【事務局】 実施日数は減ったが、鑑定希望の方が実施日に集中して来館されるので、利用者数は減っていない。お客様に不便をかけていないと思われる。

【委員】 鑑定の事業名を「石の相談室」から「石の鑑定」に変更されたが、他の事業の整理はできているのか。

【事務局】 主要な教育普及事業は、ジオパーク野外講座、ジオパーク講座、おもしろみゅーじあむの3本である。この3つだけであれば無理なく対応できるが、学校などからの依頼が多いと負担が大きい。

【委員】 依頼を断ることはあるのか。

【事務局】 学校からの案内依頼は重要な業務なので、基本的に断らない。公民館等の依頼も重要な業務であると考えている。他に先約があれば対応できないことはある。

## (2) 協議事項

【事務局】 平成30年度博物館協議会の活動計画、平成30年度事業計画（業務係担当分）について資料に基づき説明。

【事務局】 平成30年度事業計画（学芸係担当分）について資料に基づき説明。

【委員】 先日、日本古生物学会が10月15日を「化石の日」としたことについて記者発表したが、この日の前後に冠を付けた事業を実施してほしい。

【事務局】 9月に、化石をテーマとした講演会（ジオパーク講座）を予定しているので、「化石の日」の冠を付けてPRする。

【委員】 この館では博物館の事業とジオパークの事業を実施している。ジオパークの活動の中でのミュージアムの取り組みが、ジオパークの活動としか見られないおそれがある。ミュージアムの取り組みがジオパークに対してどのように貢献しているのか、見てわかるように示してほしい。

【事務局】 重要なことであり、検討する。

【委員】 24ページの、平成30年度のジオパーク野外講座について、10回に増えたのか。

【事務局】 今年度は、新潟県糸魚川地域振興局と糸魚川市が実行委員会をつくって開発した「大所森を歩こう」というツアーがあり、今年度はモニターツアーを3回実施することになった。また、昨年悪天候で中止になった雨飾山の登山を今年度実施するため、開催回数が増えている。

【委員】 昨年度実施されたマイコミ平のツアーは今年度もあるのか。

【事務局】 館主催ではないので記載は無いが、9回開催される予定である。

【委員】 講演会について、昨年度実施分の評価と、それを反映させて今年度はどのような工夫をしたのか。

【事務局】 広報について、おしらせばんの他にホームページやフェイスブックを活用している。今年度は、「おもしろみゅーじあむ」に関して学校の全生徒向けのチラシ配布を実施し、その成果が参加者数にあらわれている。

【委員】 来館者が多い時期に行事を実施すればよいのであろうが、来館者が多い時期には人手が足りないということになる。

【事務局】 開館当初の頃は18:30から館内のホールで講演会を実施してきた。その後、参加者が減ってきたので公民館に出向いて講演会を実施した。市町合併後は、糸魚川・能生・青海の3地域で同じ演題で3回の講演会を実施してきたが、参加者が減少し、現在は館内で昼間に

実施している。参加者数は、注目されている話題を取り上げた回は増えている。

【委員】 24 ページの友の会行事に関して、事務職員と学芸員の業務の負担の割合はどうなっているのか。また、年間行事予定表について、22 ページからの事業計画との対応がわかりにくい。また、エフォート（労力）の見える化をしてはどうか。

【事務局】 友の会は、発足当初は会員が自分たちで事務をしていた。現在は学芸員が事務局の仕事の多くの部分を肩代わりしている。資料の記載のしかたについて工夫する。

【委員】 広報宣伝に関して、上越市水族博物館「うみがたり」がオープンして、客のとりあいになっていないか。

【事務局】 うみがたり、道の駅マリンドリーム能生とフォッサマグナミュージアムをまわるツアーについても検討したいが、うみがたりと直接話はしていない。パンフを相互に置くなどの協力について話し合い、ツアーの開催などについても検討したい。

【委員】 うみがたりをまる一日見ることもないと思われるので、うみがたりとの動線ができればよい。

【委員】 14 ページの「大火にあったヒスイ」の展示の経緯と意図について説明していただきたい。

【事務局】 展示したヒスイは、駅北大火の被災地にあるそば屋「泉屋」の床の間に飾られていて被災したもので、泉屋のご主人から寄託を受けた。美しかったヒスイが大火に遭い、高温にさらされた後で放水されて見る影もなくなってしまったということを示す、シンボリックな意味もある。

【委員】 高温にさらされてどのような鉱物ができたかなどの分析はしたのか。

【事務局】 分析はまだである。

【委員】 先ほど話があった「化石の日」について、古生物学会が決めたことであり、多くの施設が記念事業を行なうかが重要である。個々に行事を実施するより、他の施設と連携した事業として、小さくてもよいので展示会をしてはどうか。

【事務局】 近隣の、長岡市立科学博物館や野尻湖ナウマンゾウ博物館などと連携することが望ましいか。

【委員】 新潟大学は糸魚川市と合同で恐竜の化石を探すことも目的とした調査をしているので、恐竜が見つかっている地域との連携はどうか。また、新潟大学でいろいろな機会にフォッサマグナミュージアムから標本を借りているが、どこに記載されているのか。

【事務局】 標本の貸出は 15 ページに記載されているが、新潟大学への貸出が抜けている。

【委員】 タイプ標本はあるのか。

【事務局】 新鉱物はある。化石は、腕足類、床板サンゴなどがある。

【委員】 館としての業績になるので、記載しておくべきである。

【委員】 日本ジオパーク、世界ジオパークの審査基準などがわかりにくく、関係者、事務局や企業系の応援団も混乱しているのではないかと。再審査のルールと基準がよくわからない。ジオパークと世界遺産など他のユネスコ事業との違いなどについて紹介する常設の展示を作ってはどうか。市役所内のジオパーク担当部署は以前は市長部局にあったが、現在はどの部署にあるのか。

【事務局】 糸魚川ジオパークのマネジメントは商工観光課にあるジオパーク推進室が担当している。地質の学芸員 4 名と文化振興課の考古学の学芸員 3 名はジオパーク推進室と併任になっており、専門的なことは学芸員が担当している。展示については検討する。

【委員】 大学で博物館概論という講義を受け持っており、日本ジオパーク、世界ジオパーク、世界遺産の違い、ユネスコの関与について整理して紹介している。一般の人がどのようにジオパークを理解しているか心配なところもある。

#### 4 フォッサマグナパーク見学および意見の集約

##### (1) 見学

マイクロバスおよび徒歩でフォッサマグナパークの断層露頭へ移動。竹之内館長補佐の解説を受けながら、はぎとり標本と断層露頭を見学。フォッサマグナミュージアムの研修室へ戻る。

##### (2) 意見の集約

【委員】 駐車場から断層露頭までの遊歩道について、整備する予定はあるのか。車いすでは、急な坂もあることから、断層露頭まで行くのは難しいのではないかと。

【事務局】 道を清掃するが、車いす対策の予定はない。川を渡って断層露頭にアクセスするルートを整備できないかとのご意見をいただいている。

【委員】 フォッサマグナパーク整備保存活用計画策定委員会で、断層露頭へ下りる既存の階段について、車いすに対応できるように整備するか検討した。その結果、車いすが通れるようにするのは難しいので、その替わりとしてはぎとり標本を遊歩道上に設置した。

【委員】 川の対岸から断層露頭が見える。対岸から見る人のために、対岸の道や、断層露頭の表示を対岸から見てわかるように整備すれば、遊歩道を車いすで通れるような整備は不要ではないかと。

【委員】 国道沿いの駐車場の解説看板に断層露頭の写真を入れることはできるか。観光案内所で、フォッサマグナパークを子どもたちが遊べる公園だと勘違いされることがある。ヒスイ王国館も同様。

【委員】 対岸の整備については、将来は車を止められるようにして、見学できるようにする可能性はある。

【委員】 根知周辺の複数の見学地を、位置関係などをまとめて説明する解説板がない。

【事務局】 整備保存活用計画策定委員会では、周遊ルートの策定も課題になっている。総合的な案内看板の整備について検討したい。

【委員】 断層露頭は現在は市の天然記念物だが、将来的に断層露頭は新潟県、あるいは国の天然記念物にする意義がある。対岸の県道から断層が見えるように看板を整備すると、(県や国といった)大きな位置付けの中に入って行けると思われる。県指定になれば、県道に看板を立てる理由がつく。

【事務局】 ゆくゆくは県、国指定にしていきたいと考えている。

【委員】 以前より東西の岩石の違いがよくわかるようになった。色がはっきり違う。

【委員】 水の対策について、現状では早々に断層露頭が傷むのではないかと。パイプを通すなどしてはどうか。

【事務局】 斜面に向かって左手にある小さな沢があり、その沢にたまった崖錐の底から水が湧いている。

【委員】 先ほど現地で建設業者のかたと話をした。浅い位置にある数本のパイプから側溝に水を流すはずが、ほとんど機能していないとのこと。遊歩道より上流にパイプを埋めて水を出せば、

下の方の水は減るのではないか。

【委員】 遊歩道の手すりが低いことへの対策の他に、階段に設置されている既存の手すりが劣化しているので、修繕する必要がある。

【委員】 フォッサマグナパークのことではないが、博物館の活動内容や実績は、県立博物館レベルの高度な内容のことが達成できているが、要望がひとつある。市民の皆さんとの関わりについて、ジオパークの活動を始めてから変化している。ミュージアム友の会の方々だけでなく、ジオパーク協議会に関わっている、より多くの一般市民の方々との関わりが感じられるような取り組みがあれば、国内のジオパークの中で、専門の博物館のあるべき姿をリードできるのではないか。

6 閉 会 (16 : 25)

竹之内館長補佐あいさつ

以上